

く努力した。

此の頃日本農政組合、日本商船同盟等に於ては、概くまで全国統一政策の成  
立に努力せざるべからずとの意味であつた。公平なる政策を期すべしとの  
かゝる案に賛成を脱する事を得たが、此の爲に日時亦並引して十月十七日  
り三日間に跨りて、漸く第三回領領規約調査委員会が開かれた。此の委員会に  
於て、本評議会は最も如実に、疎遠なる真意を示せる事、大体結党準備の大綱  
を協議する事と出来た。

茲に其後又わが政界準備運動が諸議に乗り上げた。其は宛同盟準備会第二次  
会議や諸党の近づくに於て、今迄準備運動に精力を注ぎし未だし、政治研究会、水  
手社無産者同盟、新に出現せるもの外無産青年同盟等を政界より除外せし  
とする意見が盛んしたるに對し、各党に於ける親近政界準備地方評議会は之に反  
對した。

然爾其の内に宛同盟所屬組合も各分に分ちて居た。そこで諸党は相替  
改選予定、に十一月二十九日第三回領領規約調査委員会を開き、翌日第二  
次議案が提出された。  
此の案は三回調査委員会に於て、宛同盟同盟準備会に不利の如き意見と不  
賛成した。然るに其時とする所は本評議会の對立関係を、衆議に改良準備

前日まで行り込んだりやわづらひ此の組合全体が引見、何卒意見は理由の  
つた。斯くて其先直前に宛同盟準備運動は大困難に遭遇した。宛同盟改選の行  
動には相当非難も受かつた。  
然し、宛同盟が改選したのには、何れも言つても、評議会との對立関係を、此  
に直撃を蒙りしのがたが爲めであるが故に、本評議会は、此の困難に對し、全  
然無視の態度を採る事な出来なかつた。そればかりでなく、宛同盟の最高  
幹部中の一部の諸君が、宛に本評議会を其態度の平光にせしめ、中絶した事  
は、本評議会の真意を充分理解せしめられし多くの親近関係に、本評議会を根  
絶せしめ、宛同盟改選本引いては、宛党成立の前途、若しくは、第一宛党成  
立の不可成とびるに及らざるもの感も強引した。

然し然り、自派の條及団体代表者諸君は、其困難を緩和すべく努力せられ  
た結果、当時の日本労働組合聯合の代表宛本考二即改より  
一評議会は此際自派の代表宛本考二即改より  
二宛同盟に付復希納請を爲す  
三来るべき評議会に、両者を復希せざるべく努力す  
の案も案も提出された。

之に對し、本評議会は、意見を承渡し、概よく一時宛退して、